

ご利用案内

通常投映日時＝土・日・祝日

※平成 27 年 12 月 28 日(月)～平成 28 年 1 月 4 日(月) 年末年始休館

通常投映時間・内容(10 月～12 月)

11:00(幼児～小学生向け)	13:30(小～中学生向け)	15:00(高校生～大人向け)
ほしふるよるに プラネタリウム ちびまる子ちゃん 星にねがいを ほしのおはなし(星空解説)	太陽系の惑星 プラネタリウム ちびまる子ちゃん 星にねがいを 星空解説 ※12/5(土)「親子プラネタリウム」は 別内容となります。	4D2U 地球と月の誕生 かぐやとKAGUYA ～月が地球にくれた贈り物～ 星空解説

※ご希望による投映も行います。事前予約が必要となりますので、詳細はお問い合わせください。

観覧料

高校生以上(個人)	510 円
高校生以上 (団体 20 名以上)	410 円
中学生以下	無料

☆博物館パスポート 1 枚につき、
高校生以上 1 名無料

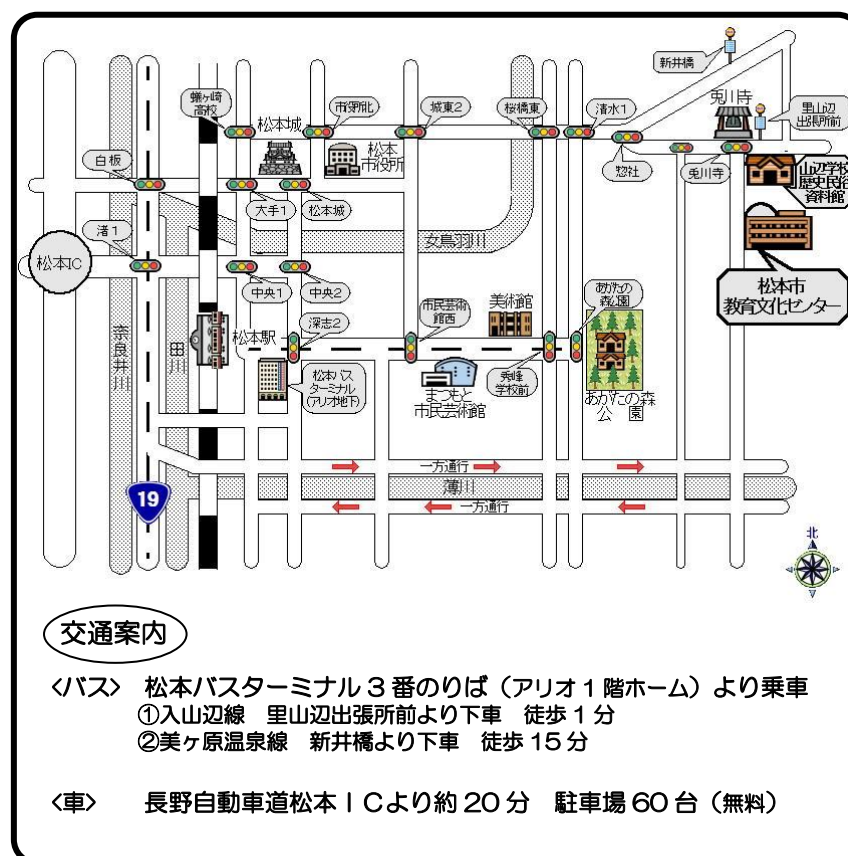
☆転入世帯優待券 1 枚につき、
1 世帯家族無料

☆障害者手帳持参により、
本人とその介助者 1 名無料

☆市内在住 70 歳以上の方は無料

☆その他、各種イベント開催時には無料

アクセス



松本市教育文化センター

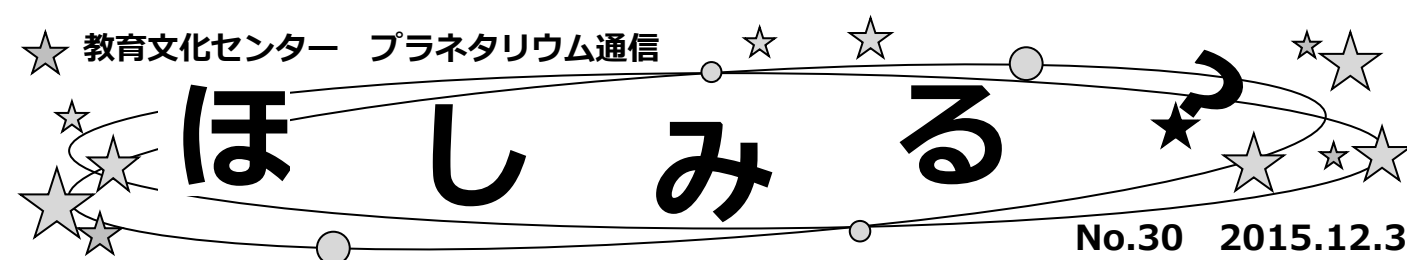
〒390-0221 松本市里山辺 2930-1

TEL:0263-32-7600 FAX:0263-32-7604

E-mail:kyoubun@city.matsumoto.nagano.jp

☆☆ 星空音楽館企画委員募集 ☆☆

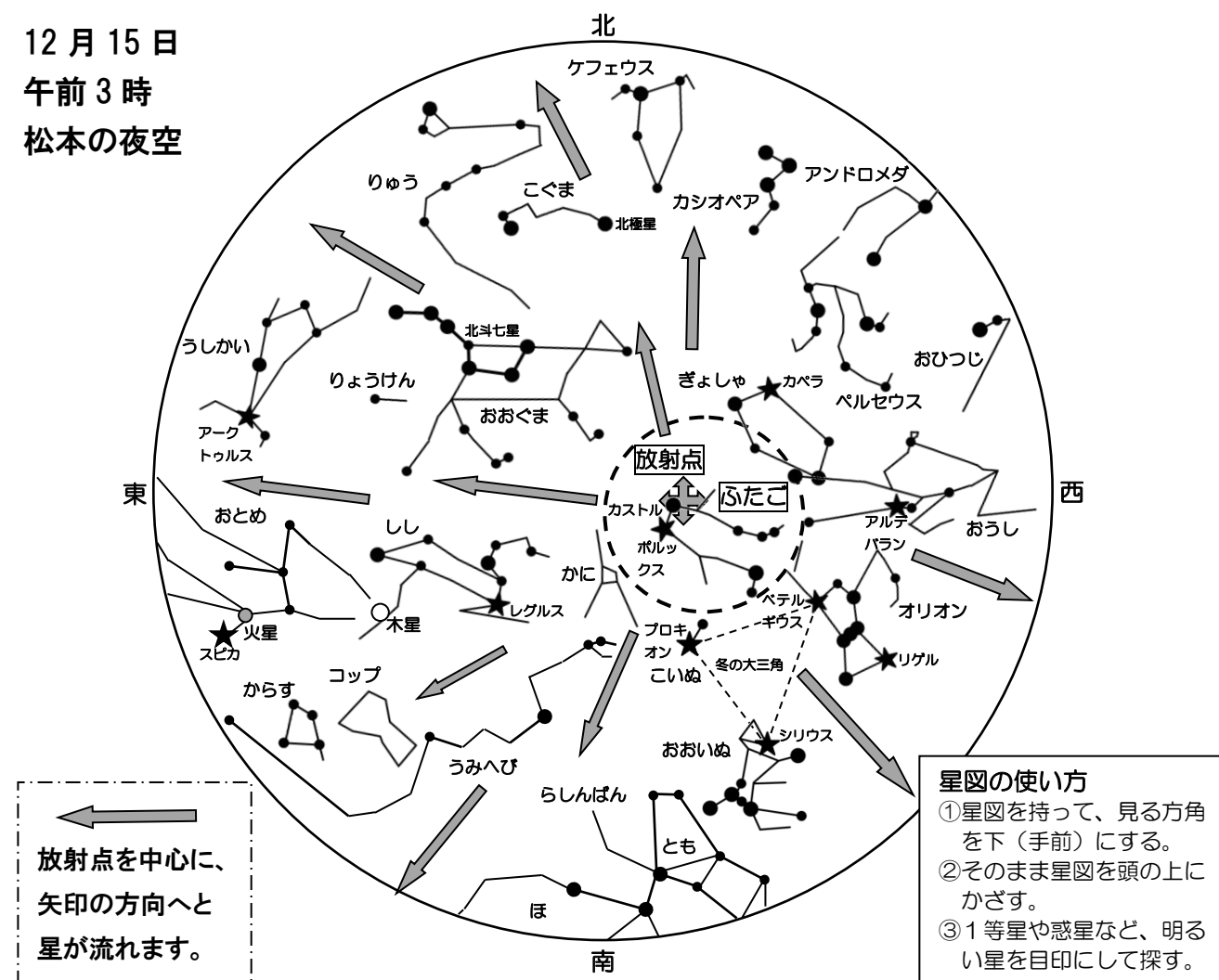
当センターで行われる「星空音楽館」の企画委員を募集しています。
企画の参加、プラネタリウムで流す音源の選定、当日の受付などを行います。
興味のある方は是非ご連絡ください。



晴れた夜はふたご座流星群♪

毎年 12 月は 3 大流星群の 1 つである「ふたご座流星群」が見頃を迎えます。今年は、条件の良かった昨年よりもさらに好条件で、晴れていれば多くの流星が見られそうです！！

12 月 15 日
午前 3 時
松本の夜空



今年のふたご座流星群

毎年安定して多くの流星が見られるのが特徴で、1 時間あたり 50 個以上の流星が見られます。

放射点はふたご座の 2 等星カストルの近くにあり、ほぼ 1 晩中観測することができ、20 時頃から出現しはじめます。

今年は 12 月 5 日～20 日にかけて出現し、極大(流星がもっとも多く現れるころ)は 15 日の午前 3 時となります。11 日が新月のため、極大の当日および前後日は月明かりに邪魔をされることなく多くの流れ星を見ることができそうです。

ふたご座の神話

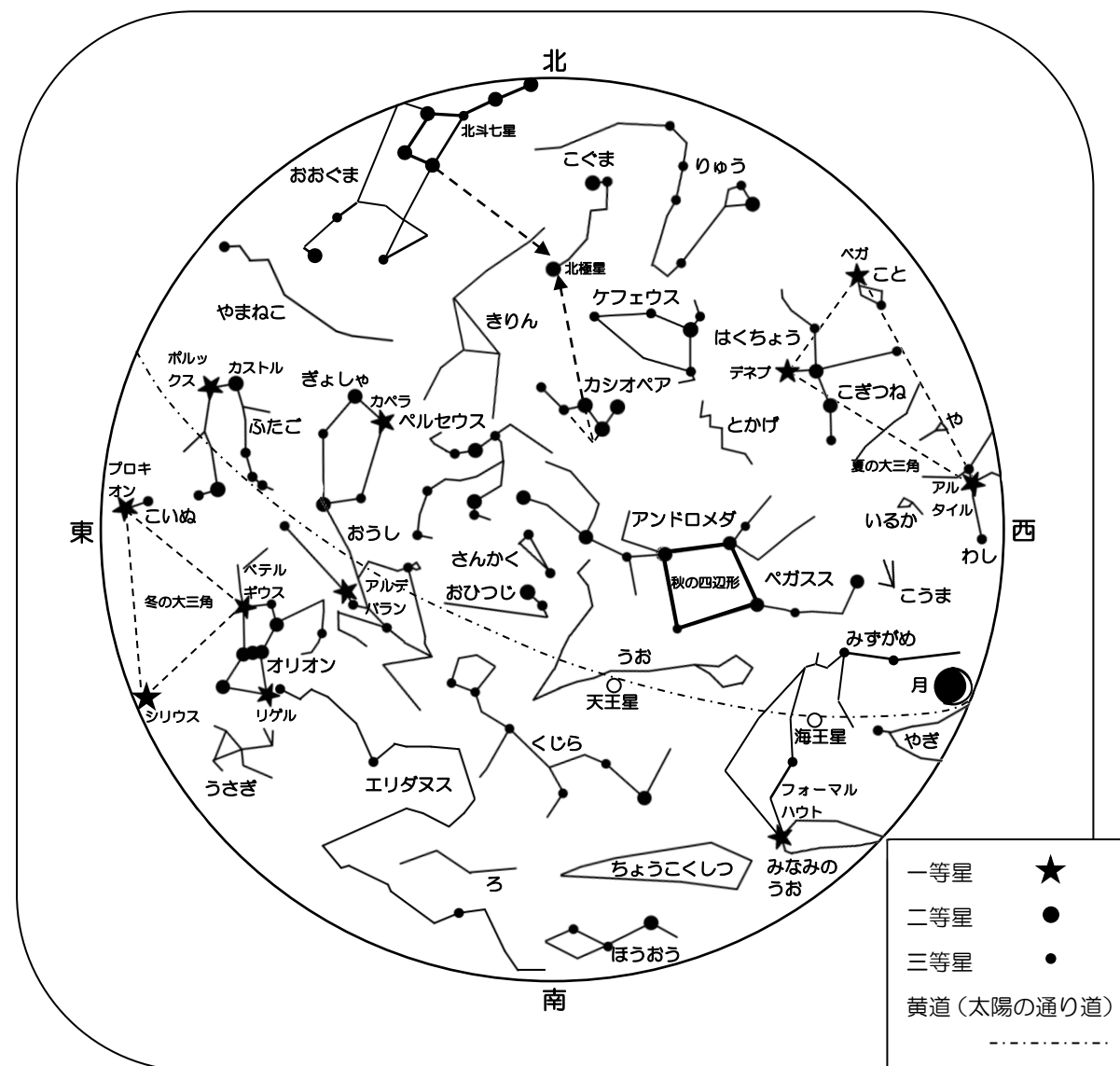
モデルとなったのは、ギリシャ神話に登場するカストルとポルックス(名前はラテン語読み)という双子の兄弟です。白鳥に変身した神々の王ゼウスと、スパルタ王妃レダとの間に生まれました。

兄のカストルは馬術の達人、弟のポルックスはボクシングの名手でした。また、カストルはスパルタ王の血を引きつづいた人間でしたが、ポルックスはゼウスの血を引き不死身の体でした。「争いで先に死んでしまった兄と一緒にいたい」というポルックスの願いを聞き入れ、ゼウスはふたりを夜空の星座としました。

その名残で、カストルは 2 等星、ポルックスは 1 等星なのだと言われています。

季節の星空

12月15日20時頃の松本の星空



12月の主な天文情報

3(木) はやぶさ2が地球へスイングバイ予定

4(金) 月と木星が接近

6(日) 月と火星が接近

8(火) 細い月と金星が大接近

11(金) 新月

15(火) ふたご座流星群が極大(出現期間 12/5~12/20)

22(火) 冬至

25(金) 満月

31(木) 月と木星が大接近

★ スイングバイ→ある天体へ向かうために他の天体の重力や公転速度を利用して、探査機などを加速・減速させたり、方向転換を行うこと。燃料を節約できるので、その分多くの機器を搭載できます。

★ 極大→天体の活動が最も活発になること。流星群の場合は、最も多く流星が現れる期間を指します。

☆ ☆ ☆ プラネタリウム事業案内 ☆ ☆ ☆

12/5(土) ☆親子プラネタリウム 13:30~

親子連れの方を中心に楽しめるよう、番組の無料投映を行います。
今回のテーマは「ふたご座流星群」です。
申し込み不要。当日先着 90 人。

12/12(土) ☆天体望遠鏡操作技術講習 18:00~21:00

教文センター屋上に設置されている、天体観測室と大型天体望遠鏡の扱い方についての講習です。

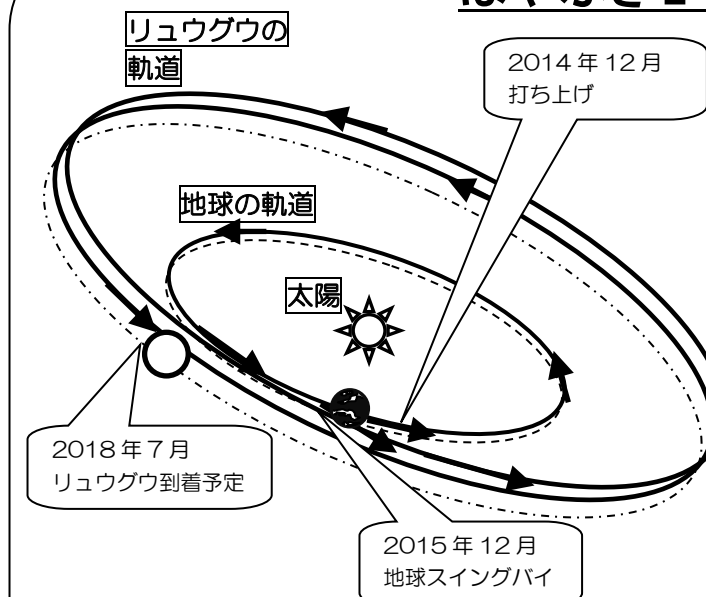
受付開始:12/5(土) 8:30 より

定員:5 人(高校生以上で、普通の望遠鏡の操作に慣れている方。)

未成年は保護者同伴)

※事前申し込みが必要な事業についての受付は、電話受付のみとさせていただきます。

はやぶさ2と浦島太郎



2014年12月3日に種子島から打ち上げられた「はやぶさ2」が、1年ぶりに地球へと戻ってきます。

はやぶさ2は、2010年に帰還した「はやぶさ」の流れをくむ小惑星探査機です。打ち上げ後、地球に近い軌道を描きながら太陽の周りを1周していました。そして、2015年12月3日に地球へと接近します。地球の重力や公転速度を利用して加速し、方向転換をするためです(スイングバイ)。

はやぶさ2が向かっているのは、小惑星リュウグウです。リュウグウは、炭素を主体とした小惑星で、太陽系が作られた当初の姿をとどめ、有機物や水を含む岩石が存在すると考えられています。そのため、サンプルの採取により太陽系や生命誕生の謎をとく手がかりが得られることを期待されています。方向転換後、リュウグウの軌道に近い軌道に乗り、太陽の周りを2周した後、2018年夏ごろにリュウグウへ到着する予定です。その後リュウグウの調査を行い、打ち上げから6年後の2020年末に地球へと帰還する予定です。

リュウグウは、当初は「1999 JU3」という仮名称で呼ばれていましたが、2015年10月にJAXAから「リュウグウ(162173 Ryugu)」という正式名称が発表されました。浦島太郎が玉手箱を持ち帰るイメージと、はやぶさ2が小惑星のサンプルが入ったカプセルを持ち帰るイメージが重なることから名付けられました。また、水を含む岩石があることから水のイメージを想起させること、神話由来の名称であることも選考理由とされています。